

# 奈良県奈良市通称奈良町における 祝言のあいさつ

佐藤虎男

## ○はじめに

1. 対象地の地理的環境：奈良市は県の北端にあり、ここに取りあげるいわゆる奈良町は、奈良町60町といわれ、奈良市の中でも古い家並みの一角をなす。中でも元興寺界隈の9町は古い景観を残している。近鉄奈良駅から徒歩約15分ほどの所であり、今回の調査地点はまさにその9町の中にある。
2. 対象地の社会的経済的環境：古くからのお店がそこそこにある家並みのたたずまいは、駅周辺の商店街とはおのずから趣を異にする。
3. 生業：まとまった生業ではないが、商業が多いようである。今時はだんだんに会社勤めが多くなっている。
4. 交通：近鉄奈良線の便があり、またJR関西線の便もある。
5. 人口：いわゆる奈良町は、約2500戸、1万人という。
6. 調査年月日：1990年10月5日 および11月11日
7. 方言話者：中実(なかみね)氏 大正14年5月生まれ(65歳)  
南治(みなみおさむ)氏 大正14年1月生まれ(65歳)  
清水章(しみずあきら)氏 大正14年8月生まれ(65歳)  
3人は幼なじみのきわめて親しい間柄である。この報告の内容は、この3人の共同協議の結果に基づく。女性の立場での発言をも、必要に応じて試みてもらった。のち、同じ町内の老年女性某氏にも確かめ聞きをした。
8. 調査者、調査場所：調査者は筆者一人。場所は、この3人の勤める青丹よし工芸美術館内。
9. 調査方法：質問法によった。

## I. 結納授受のあいさつ

1. 仲人が新婦の家に結納を持参した時、座敷で、その家の主人(新婦の父親)に向かって、どのようなあいさつをしますか。

○ホンヂツワ ドーモ ヨイ オヒガラデ ゴザイマス。ホンヂツワ  
アノー ミナミケカラ ゴエンダンノ ナゴドト イタシマシテー  
ホンヂツ ユイノーオ モッテ サンヂョ イタシマシタ。ドーゾ

イクヒサシク ゴジュノー タマワリマス ヨーニ。 本日はどうも  
よいお日柄でございます。本日はアノー南家からご縁談の仲人といた  
しまして、本日結納を持って参上いたしました。どうぞ幾久しくご受  
納たまわりますように。(上品)(かしこまり)

くたとえ親しい間柄でも、仲人となったらやはり決まった方式に従  
ってこのように言う。「お日柄がよい」と「幾久しく」とを言う  
のが肝心。>

○コノタビワ ゴト ケニ トリマシテ オメデト ゴザイマス。  
コノタビワ フシギナ ゴエンニ ヨリマシテ ゴエンダン デケ  
マシテ アノー ユイノーノ ギシキノ ゴタイヤクオ オーセツ  
カリマシテ。イクヒサシク ドーゾ ヨロシク オーサメクダサイ  
マセ。この度はご当家人にとりましておめでとうございます。この  
度は不思議なご縁によりまして、ご縁談が調いまして、アノー結納の  
儀式のご大役を仰せつかりまして。幾久しくどうぞよろしくお納めく  
ださいませ。(上品)(かしこまり)

くこれには、不思議なご縁によってということばが見える。>

2. その家の主人(新婦の父親)は、仲人に応えて、どのようなあいさつ  
をしますか。

○ドモ ゴクローサマデ ゴザイマス。エー オイソガシ ノーニ ワ  
タシドモノ エンダンノ タメニ アノー ナゴードオ シテ イタ  
ダキマシテ オセワシテ イタダキマシテ ドモ アリガト ゴ  
ザイマス。イクヒサシク ハイジュ イタシマス。

どうもご苦労様でございます。エーお忙しいのに私どもの縁談のため  
にアノー仲人をしていただきまして、お世話していただきまして、  
どうもありがとうございます。幾久しく拝受いたします。(上品)

く受ける側にも、イクヒサシクが用いられている。>

○ホンジツワ オヒガラモ ヨロシ ゴタポーチュ ニモ カカワリ  
マセズ ゴタイヤクオ アノー オヒキウケクダサイマシテ ト  
ケニ トッテワ コレイジョ ノーノ オヨロコビワ ゴザイマセン。イク  
ヒサシク ハイジュサシテ イタダキマス。

本日はお日柄もよろしく、ご多忙中にもかかわりませずご大役をア  
ノーお引受けくださりまして、当家人にとっては、これ以上の喜びはご  
ざいませぬ。幾久しく拝受させていただきます。(上品、かしこまり)

くここにも、オヒガラ云々とイクヒサシクとが用いられている。

ヨロシーは、ヨロシューのつもり。オヨロコビのオは、丁重に言おうとするあまりに、ちょっとつけすぎた感じ。>

3. その時の新婦のあいさつ。

○ホソジツワ 下ーモ アリガトー ゴザイマシタ。あるいは、

○オヤクメ ゴクローサマデ ゴザイマス。と言う程度である。

4. ちなみに。

(1)結納は、大安吉日の午前中に、仲人夫婦（ジョー下ソバ<尉と姥>）がそろって行くのが本当。近頃は、新婦の家に行くかわりに、ホテルなどに両家の両親・新郎新婦が集まり、仲人によって結納を交わすことが多くなっている。なお、仲人はナコードまたはチューニンサンと呼ばれる。

(2)仲人が結納を持参すると、まず黙ったまま床の間などの所定の位置に結納一式を並べ、しかる後祝言の挨拶（上記1および2）となる。結納納めの時には、仲人は余計なおしゃべりはしないのがよいとされ、特に「忌みことば」には細心の注意が払われる。

サルは「去る」に通じ、イヌは「去ぬ」に通じ、カエルは「帰る」に通じる。もちろんシは「死」に通じるから絶対にだめ。

また、たとえばヨクヨクといった「かさねことば」も、結婚は一回きりということで、忌避される。

(3)結納を受ける側は、予め用意しておいた請け書と、結納金の約1割相当額の「ウツリ」を差し出す。

(4)仲人は、請け書を新郎の家に提出して、次のように言う。

○ゴイライ イタダキマシタ ユイノーノギワ トドコーリナク イ  
クヒサシク オワタシ イタシマシタ。コレガ ウケショデ ゴザ  
イマス。（上品）（かしこまり）

(5)新婦の家から受けたウツリは、請け書とともに一旦は新郎の家に提出されるが、ウツリは、そのまま仲人に渡される。つまり仲人の手に帰するのであるが、じつは仲人は、事前に新郎新婦へのお祝いとして、そのウツリ相当額は支出しているのである。

II. 嫁をもらう家の人へのお祝いのあいさつ

1. 嫁をもらうことが決まった家の人に道で出会って、近所の人たちはどのようなあいさつをしますか。

○マ コノタビワ オメデトー ゴザイマス。ニーチャンニ オヨメサ

ン キマッテ ヨカッタデン ナー。ニーチャンノ コッチャサカイ  
 ニ ソラ モー アレデン ジョーヒンノ アル キレーナ オヤオ  
 ダイジニ スル ヨメサン モラワレマンネヤロ。ホソマニ オメ  
 デトー ゴザイマスー。 まあこの度はおめでとうございます。ご  
 子息さんにお嫁さんが決まってよかったですねえ。息子さんのことだ  
 から、そりゃもうあれです、品のあるきれいな、親を大事にする嫁さ  
 んをおもらいなんでしょ。ほんとにおめでとうございます。(中品)

<女同士の親しみのあるあいさつとして演技してもらった。近所の  
 家の子息をニーチャンと呼称する。親を大事にする嫁さんがなに  
 よりの願いであることがこのあいさつに反映している。>

○オー、ヨカッタ ノー。ニサンカイ キヤハッタ ミテルケド ナカ  
 ナカ エー ベッピンサンデ エー ヨメサンヤ ナイ カー。 や  
 あよかったね。二三回来られたのを見たけど、なかなかいい美人で、  
 いい嫁さんじゃないか。(ざっくばらん)

<男同士のごくくだけたあいさつ。>

○サブロクン モージッキニ ケッコンサレンネ ナー。ドッカ キャ  
 ハリマス ネン。エー トツカラ モラハンネ ナー。ベッピンサン  
 ヤ ナー。モージッキ ラク デキン ガ。ジッキ マゴガ デキテ  
 エー ガ。オメデトー。ハヨ オユワイニ イカンナンネケドモ  
 ダイアン マッテン ネン。 三郎君ももうすぐに結婚なさるんです  
 ね。どこから来られるんですか。いい所からもらえるんですよね。  
 美人ですねえ。もうすぐ棄ができるよ。すぐに孫ができてけっこうだ  
 よ。おめでとう。早くお祝いにいかなくちゃならないんだけど、大安  
 の日を待っているんだよ。(ざっくばらん)

<男同士の親しい間柄のあいさつ。ドッカは「どこから」。嫁さん  
 の出所への関心が自然に表明される。かりに分からなくても「よ  
 い家からもらえるのですね」と言うのがあいさつというもので  
 ある。ネンは「のよ」「のさ」相当の文末詞。>

○ハナシ キク トコロニ ヨルト ナカナカ アンタ ジョーシキノ  
 アル リッパナ オジョーサンラシー デ。オメデトー オメデト  
 ー。 話に聞くとところによると、なかなかアンタ、常識のある、  
 りっぱなお嬢さんらしいよ。おめでとうおめでとう。(ざっくばらん)

<男同士の親しい間柄のあいさつ。>

○コノタビワ オタクサンノ オヨメサン ヨロシ トツカラ オキマ

リニ ナリマシタソーデ オメデトー ゴザイマス。 この度はお宅さんのお嫁さんがいい所からお決まりになりましたそうで、おめでとうございます。(上品)

<やや丁寧なオーソドックスなあいさつ。男一女あるいは女同士などでこう言う。>

- コノタビ オニーチャンニ オヨメサン モラハリマスネテ ナー。ヨロシユ ゴザイマス ナ。ケッコデ ゴザイマス ナ。オメデトーゴザイマスー。 この度、ご息さんにお嫁さんをごもらわれるんですってねえ。よろしゅうございますね。けっこうでございますね。おめでとうございます。(上品)

<丁寧なあいさつ。女同士のあいさつとして。>

2. 嫁をもらう家の方は、そのあいさつに答えて、どのようなあいさつをしますか。

- ソナン ナー。スキドーシ ナリヨリマシテン ガー。オクサンニ アンバイ ユートイテ ヤ。ヨー アンバイ シコンデ モーテ ヤー。ナカナカ ナ。ソナンナ ナカナカ スキドーシ ナリヨリマシテンケド ナ。ソナン モー ジョーシキモ ナニモ オマヘンネデ。キョッタラ マタ アンバイ オクサンニ シドーシテ モラウヨーニ ユートクンナハレ ヤー。 いやもうねえ。好き同士が一緒になったんですよ。奥さんによろしく言っておいてくださいね。よく適当に教育してもらってくださいね。なかなかね。なんといってももうなかなか好き同士が一緒になったんですけどね。全然もう常識も何もないんですよ。嫁に来たら、またよろしく奥さんに指導してもらおうように言っておいてくださいね。(中品)

<近所の男の人から祝いのあいさつをされたのに対して、母親が言うあいさつである。好き同士で一緒になるのでという、一種の卑謙の辞、およびあなたの奥さんに嫁の教育をどうぞよろしくというところに注目したい。アンバイは、「よろしく」に相当する。ナリヨリマシテとかキョッタラとかの「～ヨル」は、嫁を早くも自分側のものでして待遇した卑謙の表現になる。>

- ソー マー ナー。スキドーシ ナリヨッテ ナ。マタ ットメニ イッコノ チャウ。ソナ モー イエデワ ドーキョ スンネケド ナ。トブソノ アイダー ットメル ユートルサカイニ マー ナー。エーカゲンナ コッタス ワ。マーマー。イロイロ キーテル

サカイニ ナー。ウチノ オカチャント ウマイコト イッテクレヨ  
ッタラ エネケド ナー。 うん、まあね。好き同士で一緒にな  
ってね。またお勤めにいくんじゃないかな。いやもう家では同居す  
るんだけどね。当分の間勤めると言っているからまあね。いい加減な  
ことですわ。まあまあ。いろいろ聞いているからねえ。私の家内とう  
まくいってくれたらいいんだけどねえ。(中品)

<これは嫁をもらう家の父親の応答のあいさつ。聞き手も男と想定  
している。イッコンは、「行きヨル」の訛。「チャウ」は、「～  
のと違うか」という発想の表現で、要するに「～のではないか」  
「～のだろう」に相当する。「いい加減なことです」は、これも  
卑謙のことばである。そこに見えるコッタスは「ことダス」、ダ  
スは丁寧な断定の助動詞。イロイロキーテルは、世間の嫁姑の仲  
のことを聞いているの意。家内との仲よかれと念じる男親の心>  
<以上はいずれもごく親しい間柄でのものである。>

○アリガトー ゴザイマス。オカゲサマデ マー アノー キマリマシ  
タンデ ゴザイマス。アリガトー ゴザイマス。 ありがとうございます  
います。おかげさまで、まあアノー決まりましたのでございます。あ  
りがとうございます。(上品)

<丁寧な、紋切り型のあいさつ>

○コノタビ オカゲサンデ マー ウチー キタロテ ユー ヒトガ  
アリマシタンデー マー アンナー ウチノ ムスコワ アンナンデ  
スドモ マー マー キタロ ユ シト アリマシタンデー アノ  
キテ イタダク コトン ナリマシテンヤ。マ 下ーゾ ヨロシク  
シトツー コンゴ下モ オタノモーシマス。 この度、おかげさま  
でまあうちに来てやろうという人がありましたので、まああんな、私  
方の息子はあんなのですけれども、まあまあ来てやろうという人があ  
りましたので、アノ来ていただくことになりましたんです。まあどう  
ぞ一つ今後ともよろしくお願い申します。(上品、かしこまり)

<やや丁寧なあいさつ。「来てやろうという人があったので」と言  
いなすところが注目されよう。ヨロシユでなくヨロシクである  
点に今日的な状況が見える。オタノミモーシマスの「ミ」が脱落  
しているのが普通の言い方である。>

### 3. ちなみに。

(1) 近く嫁をもらう家へ、近所の人がお祝いを持参してのあいさつ。

○コノ タビ ワ オメ デ ト ー ゴ ザ イ マ ス。 コ レ オ ソ マ ツ テ ゴ ザ イ マ ス ケ ド モ オ イ ウ イ ノ シ ル シ デ ゴ ザ イ マ ス ノ デ ド ー ゾ オ ー サ メ ク ダ サ イ。 この度はおめでとうございます。これはお粗末でございますけれども、お祝いの印でございますので、どうぞお納めください。(上品)

<女→女。最も一般的な祝いのあいさつ。>

○マ ー マ ー ワ ズ カ ヤ ケ ド カ ン シ ト イ テ ヤ ー。まあまあ僅かだけれど堪忍しておいてちょうだい。

<男→義妹。近所に祝いを持参するのは普通は女であるが、かりに弟の家に自分が行ったと仮定すると、この程度であろう。カンはカンニンの略。カンニとも。>

(2) それに答えてのお礼のあいさつ。

○ソ ン ナ キ ツ ケ テ イ タ ダ キ マ シ テ ア リ ガ ト ゴ ザ イ マ ス。 モ ソ ン ナ イ タ ダ ク ツ モ リ ヤ ゴ ザ イ マ セ ン ネ。 ア ノ ー モ ジ セ ツ デ ゴ ザ イ マ ス ノ デ モ カ ン タ ン ナ コ ト デ ー モ ー キ ョ シ キ オ シ タ イ ト オ モ イ マ ス ノ デ モ ソ ン ナ ー モ ー ネ ー、 イ タ ダ ク ワ ケ ワ ゴ ザ イ マ セ ン。 (←○イ ヤ、ソ ン ナ ー。 ア ノ ー コ レ ワ ー モ ー オ メ デ タ イ コ ト デ ゴ ザ イ マ ス ノ デ ド ー ゾ ゴ エ ン リ ョ ナ シ ニ オ ー サ メ ク ダ サ イ。) ソ ー デ ゴ ザ イ マ ス ガ。 ソ ラ ド ー モ。 そんな気をつけていただきましてありがとうございます。もうそんなの戴くつもりではございませんのです。アノーもう時節柄でございますので、もう簡単なことで、もう挙式をしたいと思っておりますので、もうそんなもうねえ。戴くわけはございません。(←いいえ、そんなこと。アノーこれはもうおめでたいことでございますので、どうぞ遠慮なくお納めください。) そうでございますか。それはどうもありがとうございます。(上)

<女→女。ごく丁寧なあいさつ。一旦は辞退するところが注目点である。これも一種の感謝の表現であるから、持参した方も、そうですかと言って持って帰ることはない。ゴザイマセンネの「ネ」は「のや」からの転。>

○オ ー キ ニ ア リ ガ ト ー ゴ ザ イ マ ス。 ニ ー チ ャ ン ト コ カ ラ モ ラ ウ ヒ ツ ヨ ー ナ イ ノ ニ イ ツ モ イ ツ モ モ ー ナ ニ カ ト モ ー ゴ シ ン バ イ カ ケ テ エ ラ イ ス ン マ ヘ ン。 マ エ ン リ ョ ナ ク モ ー ト キ マ ツ サ ー。 ア リ ガ ト ー ゴ ザ イ マ シ タ。 どうもありがと

うございます。兄さんところからもらう必要はないのに、いつもいつもご心配掛けてたいへん申し訳ありません。まあ遠慮なくもらっておきますわ。(中～上品)

<義妹→男>

○マーマ オタクサンマデ ゴシンバイ ナリマシテ ドーモ アリ  
ガトー ゴザイマス。まあまあお宅さんまでご心配イタダキマ  
してどうもありがとうございます。(上品)

<一般に、女→女>

(3)祝いはほとんどお金です。品物するのは、よほど親しい間柄だけである。のし袋にお金を入れ、お盆に載せ、袱紗を掛け、全体を家紋の入った風呂敷で包む。

受ける方は、事前に用意しておいた「ウツリ」(いただいた金額の1割という。それより多く包む家もある。)を、半紙あるいは懐紙を添えて返す。

なお、日常、お餅などを器に入れてもらった時などに、マッチや半紙を入れて返すのは、「タメ」「オタメ」であり、事後品物で祝いの半分ほどの物を贈るのは「ウチイワイ」である。いわゆるカイキ(快気)祝いのこともウチイワイと言っていた。

### Ⅲ. 嫁に出すことが決まった家の人へのお祝いのあいさつ

1. 嫁に出すことの決まった家の人に、近所の人たちはどのようなあいさつをしますか。

○コノタビワ オメデトー ゴザイマス。オハナシ キク トコロニ  
ヨルト ナッカナカ リップナ ゴシュジンラシーデス ナー。ホン  
トニ オメデトー ゴザイマシタ。マサコサンモ ナー。ナカナカ  
ヂ。ヨー デケタ オヒトヤサカイニ エー シト ナニ シャハリ  
マシタ ナー。ホントニ オメデトー ゴザイマス。この度はお  
めでとうございます。お話聞くとところによると、なかなかりっぱなご  
主人らしいですねえ。ほんとおめでとうございました。正子さんも  
ねえ。なかなかね。よく出来たお方だから、いい人とご縁がおありで  
したねえ。ほんとおめでとうございます。(上品)

<男→女親。丁寧。近く婿となるべき男性を褒めて共に喜び、かつ  
相手の頼さんを褒め、そのゆえにこそりっぱな伴侶を得たのだと  
いう。こころにくいばかりの気配りである。「ナニしやはりまし



た」のナニは、日常談話でよくやる「間に合わせことば」。>

- キク トコロニ ヨリマスト オタクノ オジョーチャン イー 下  
コイ オヨメニー ゴエン アッテ オヨメニ イカレルラシーデス  
ナー。オメデトー ゴザイマス。 聞くところによりますと、お宅  
のお嬢さん、いい所へお嫁にご縁があって行かれるらしいですねえ。  
おめでとうございます。(上品)

<男→女親。標準的なあいさつ。>

- オメデトーサン。コノタビワ ヨカッタ ナー。ホンマニ。オネーチ  
ャンモ ナカナカ ナ。シッカリシタ エー シトヤサカイニ ナ。  
センポーサンモ ナカナカ リッパナ ヒトラシーヤ ナイ ケ。ウ  
チノ ムスメモ アヤカリタイ ワ。 おめでとうさん。このたび  
はよかったね。ほんとに。お嬢ちゃんもなかなかね。しっかりしたい  
人だからね。先方さんもなかなかりっぱな人らしいじゃないの。う  
ちの嬢もあやかりたいよ。(ざっくばらん)

<男→男親。親しい間柄でのあいさつ。発想は上と変わらないが、  
ここには「うちの嬢もあやかりたい」とあるのが絶妙である。み  
ずからを劣位におくことで、相手への敬意を表すメッセージとす  
るものであろう。オメデトーサンという「オ～サン」接辞による  
形態がここにもある。なお、「～ヤナイケ。」のケは、カよりも  
当たりの柔らかな言い方になる。>

- ナカナカア アレヤ ー。ムコハンター オマエ、リッパナ ヤッ  
チャロ オマエ、キョーダイ デテ オマエ、エー トコエ ヨメイ  
リ ション ー。ウチノ ムスメモ ソンナ ヒトニ アヤカリタ  
イ トワー。 なかなかなんだねえ。婿さんってのがオマエ、りっ  
ぱな人なんだろオマエ、京都大学を出てオマエ、(そういう)いい所  
へ嫁入りするんだね。うちの嬢もそんな人にあやかりたいよ。(下)  
<これはさらにくだけた男同士のあいさつ。オマエは間投詞。ショ  
ンは「しヨル」。>

2. 嫁に出す家の方は、そのあいさつに答えて、どのようなあいさつをしますか。

- エー、モー キョービノ コトデスノデ マー マー スキン ナリマ  
シテ ン。マ ヨロシユ オネガイシマッサ。 ええ、もう近頃の  
ことですので、まあまあ好きになりましたね。まあよろしく願いま  
すよ。(中品)

<男→男。あっさりとしたあいさつ。シマッサは「しますワ」。>

○エー、マ オカゲサンデ ナ。マーマー エー ヒトニ トコイ イ  
ッキョリマンネ ワー。マ ドンナ コッチャ ワカリマヘンネケド  
ナ。アト シトツ メンド マタ ミト オクンチハレ ヤー。

ええ、まあおかげさまでね。まあまあいい人に(いい)所へ行くん  
ですよ。まあどんなことか分かりませんのですけどね。今後ともひと  
つ面倒をまた見てやってくださいね。(中品)

<女→女 という設定での発話。女性としては、これが普通のあい  
さつである。>

### 3. ちなみに。

(1)嫁に出す家へ祝いを持参してのあいさつは、嫁迎えの家への場合と大  
体同じであるが、この時に相応しいあいさつことばは、「ゴダイソサ  
レル」(お金を注ぎ込んでりっぱな道具をそろえなさる。)である。

○コソタビワ オメデトー ゴザイマス。タイヘン ゴダイソー サ  
レタソーデ。この度はおめでとうございます。たいへんご大層さ  
れたそうで。

(2)嫁に出す家では、昔から、嫁入り道具を親戚や近所の人に公開するい  
わゆる「イショーミセ」(衣装見せ)をする習慣がある。留袖と帯と  
を衣桁に掛け、簞笥などは、見に来た者に自由に開けて見てもらうの  
である。昆布茶と紅白の饅頭を出して接待する。近頃は少なくなった  
が、それでもまだこれをする家がある。

## IV. 結婚式当日のあいさつ

結婚式当日、結婚式に出席した人たちは(親戚以外)、どのようなあいさ  
つをしますか。

### 1. 新郎の父親にどのようなあいさつをしますか。

○コンタビワ オメデトー ゴザイマス。ショータイシテ モーテ ア  
リガトー ゴザイマス。この度はおめでとうございます。招待し  
てもらってありがとうございます。(上品、かしこまり)

<男→父親。今時は結婚式を自宅ですることがほとんどないから、  
親戚ででもないかぎり、近所の人を式に招くことは少ない。余程  
親密な付き合いをしている場合などには招待することもあるが、  
そういう場所では、新郎の父親に直接あいさつをする機会はほと  
んどない。もし言えば、どんなに親友の間柄でも、このような型

通りのあいさつになる。>

1—2. 父親は、それに応じて、どのようにあいさつをしますか。

○イ<sup>ア</sup>イヤ。オイソガ<sup>シ</sup>ーノニ <sup>ワ</sup>ザ<sup>ワ</sup>ザ <sup>キ</sup>テ <sup>イ</sup>タ<sup>ダイ</sup>テ <sup>ア</sup>リガ  
下— <sup>ゴ</sup>ザ<sup>イ</sup>マス。 いやいや。お忙しいのに、わざわざ来ていた  
だいてありがとうございます。（上品、かしこまり）

<男親→男。いわば標準的なあいさつである。>

2. 新婦の父親にどのようなあいさつをしますか。

新郎の方に招かれた客は、新婦の父親には特にあいさつなどしない。  
その逆も同じである。その時のあいさつことばも、上に記したのと大差  
はない。

V. 結婚式後、姑が新婦を連れて近所へあいさつに回る時のあいさつ

1. 結婚式後、姑が新婦を連れて、近所の家にあいさつをして回る時、姑  
はどのようなあいさつをしますか。

○コレ <sup>コ</sup>ンド <sup>ア</sup>ノ— <sup>ウ</sup>チノ <sup>ヨ</sup>メ<sup>ダ</sup>ン <sup>ネ</sup>ン。（と言ってから、  
嫁に向かって）コレ <sup>ナ</sup>。ナカノ <sup>ネ</sup>—<sup>チ</sup>ャ<sup>ン</sup>ヤ <sup>ネ</sup>デ。アン<sup>バ</sup>イ  
<sup>コ</sup>レ<sup>カ</sup>ラ <sup>シ</sup>コ<sup>ン</sup>デ <sup>モ</sup>ライ。ナカナカ <sup>ナ</sup>。シ<sup>ッ</sup>カ<sup>リ</sup>シ<sup>タ</sup> <sup>シ</sup>ト<sup>ヤ</sup>  
<sup>サ</sup>カイニ <sup>ナ</sup>。ナン<sup>デ</sup>モ <sup>ワ</sup>タ<sup>シ</sup>ニ <sup>キ</sup>—<sup>テ</sup> <sup>ワ</sup>カ<sup>ラ</sup>ン <sup>コ</sup>ト<sup>ワ</sup> <sup>モ</sup>  
<sup>コ</sup>ノ <sup>ネ</sup>—<sup>チ</sup>ャ<sup>ン</sup>ニ <sup>キ</sup>キ。（再び向き直って）<sup>ネ</sup>—<sup>チ</sup>ャ<sup>ン</sup>、<sup>シ</sup>ト  
<sup>ツ</sup> <sup>マ</sup>— <sup>キ</sup>キニ <sup>キ</sup>ト<sup>ッ</sup>タ <sup>タ</sup>ノ<sup>ム</sup> <sup>デ</sup>—。これが今度アノウ  
ちの嫁ですの。（嫁に向かって）この人がね。中（仮に設定した姓）  
の奥さんなんだよ。しっかりこれから教育してもらいなさい。なかな  
かね。しっかりした人だからね。なんでも、私に聞いて分からないこ  
とは、もうこの奥さんに聞きなさい。（再び向き直って）奥さん、ひ  
とつまあ聞きに来ていたらよろしく頼みますよ。（中品）

<姑→主婦。ネーチャンとは、相手方の主婦を指す。姑からは歳下  
であっても、こう呼ぶ。もちろん嫁からは先輩株である。その先  
輩を立てて、新入りの嫁の教育を依頼するのである。モライ・キ  
キは、歳下のものにやさしく諭すような動詞連用形命令法。>

2. そのあいさつに応じて、近所の人にはどのようなあいさつをしますか。

○<sup>ソ</sup>ェ—<sup>ン</sup>。ナニ <sup>ユ</sup>—<sup>テ</sup>ン <sup>ノ</sup>—。ン<sup>ナ</sup> <sup>ワ</sup>タ<sup>シ</sup>ミ<sup>タイ</sup> <sup>ナ</sup>ニ<sup>モ</sup> <sup>ワ</sup>  
<sup>カ</sup>ラ<sup>ン</sup>。オ<sup>カ</sup>チ<sup>ャ</sup>ン <sup>ズ</sup>ツ<sup>ト</sup> <sup>リ</sup>ッ<sup>パ</sup>ナ <sup>シ</sup>ト<sup>ヤ</sup>—。ヨ— <sup>シ</sup>ツ<sup>テ</sup>ハ  
<sup>ル</sup>。ナン<sup>デ</sup>モ <sup>オ</sup>カ<sup>チ</sup>ャ<sup>ン</sup>ニ <sup>キ</sup>—<sup>テ</sup> <sup>オ</sup>カ<sup>チ</sup>ャ<sup>ン</sup>ノ <sup>ユ</sup>— <sup>コ</sup>ト  
<sup>キ</sup>ク<sup>ン</sup>ヤ <sup>デ</sup>—。 いやあ。なにを言ってるの。そんな、私のように

な者は何も分からないわ。(あなたの新しい)お母さんはずっとりっぱな人よ。よく(なんでも)知っていなさる。なんでもお母さんに聞いて、お母さんの言うことを聞くのですよ。(中品)

<姑さんを立てて、仲よくやってくれるように、という願いは、一種の社会教育のようですえある。>

- ア、ワタシ ナカデ ゴザイマス。マ コンゴトモ ナ。オカーサン  
ダイジニ シテ アゲテ ヤー。オトサンモ オカサンモ エー  
ヒトヤサカイニ ナカヨー イッテ ヤー。 あ、私は中(姓)  
でございます。まあ今後ともね。お母さんを大事にしてあげてね。お父さんもお母さんもいい人だから、仲良くいってね。(中品)  
<やはり両親を大事にということのを忘れない。>

### 3. ちなみに。

近頃は、キンジョマワリをあまりしなくなりましたが、丁寧なお家は今でもするところがある。今は挙式後、すぐに新婚旅行に発つので、それから帰ってからである。旧式な家へは、今でも、マンジューボン(四角い盆に饅頭を盛ったもの)を持っていくが、饅頭を好まれないような家へは、新婚旅行のお土産を代わりに入れる。必ずフクサを掛けて。

## VI. 嫁を迎えた家の人へのお祝いのあいさつ

1. 10日ほど前に、長男(29歳)に嫁をもらった60歳台の父親へ、結婚式に招かれた50歳台の女性が、昼下がりの路上で、どのようなあいさつをしますか。

- コノタビワ トドコーリナク ヨイ オヨメサンオ オムカエニナリ  
マシテ オメデトー ゴザイマス。 この度は滞りなくよいお嫁さんをお迎えになりましたおめでとうございます。(上品、かしこまり)  
<すこしあらたまった感じのあいさつ。下の「3. ちなみに」に掲げる嫁に出した家の人へのあいさつに似たのもありうる。その時には、嫁の方を褒めることになる。>

2. 父親は、それに応えて、どのようなあいさつをしますか。

- アリガトー ゴザイマス。オカゲサンデ。 ありがとうございます。  
おかげさまで。(中品)  
<ごく簡単なあいさつ。>  
○センダッテワ ドーモ エライ ワザワザ タクサン オユワイ モ  
ーテ アリガトー ゴザイマシタ。 せんだってはどうもたいへん

わざわざたくさんお祝いをいただいてありがとうございました。

< 祝いのお礼が趣旨。上のと違ねて言うことももちろんある。 >

### 3. ちなみに。

(1) ほかは上と同じ設定で、嫁に出した方の人へはどうあいさつするか。

○コナイダワ 下ーモ。チー、リップナ ケッコソシキデシタ チー。  
タクサンノ ヒト キヤハッタノ チー。リップナ ヒローエンデシ  
タ チー。ゴシュジンモ リップナ ガッコ デテハルシ イチリュ  
ーショーシャイ ツトメテハッテ ホントニ トシコサンモ シヤワ  
セヤ ワチー。ムコノ ゴリョーシンモ ナカナカ リップナ シト  
ラシーシ ホンーマニ ケッコナ。 先日はどうも。ねえ、りっぱ  
な結婚式でしたねえ。たくさんの方が来られたんですねえ。りっぱな  
披露宴でしたねえ。ご主人もりっぱな学校出られるし、一流商社  
に勤めておられて、ほんとに敏子さんも幸せですよ。先方のご両親  
もなかなかりっぱな人のようだし、ほんとに結構なことです。(中品)

(2) それに対して、新婦の父親はどういうあいさつをするか。

○スキドーシ ナリョッタサカイ ナ。イチオー ガッコワ デトルケ  
ドモ セケンノ ジョーシキミタイナ モン ゼンゼン アラヘンサ  
カイン チー。オクサン マタ シトツ シドーシテ ヤッテ オクン  
チハレ。タノンマッサ。 好き同士が一緒になったんだからね。  
一応学校は出ているけれども、世間の常識のようなものは全然ないか  
らね。奥さん、またひとつ、指導してやってください。お願いします  
よ。(中品)

## Ⅶ. 結婚式後の仲人へのあいさつ

1. 結婚式後、仲人の所へ新郎新婦(あるいは両親)がお礼に行った時、  
どのようなあいさつをしますか。

○コノタビワ 下ーモ オセワニ ナリマシタ。ゴクローサンデ ゴザ  
イマシタ。オカゲサンデ リップニ シテイタダキマシテ アリガト  
ー ゴザイマシタ。 この度はどうもお世話になりました。ご苦勞  
さまでございました。おかげさまでりっぱにさせていただきました、あ  
りがとうございました。(上品、かしこまり)

< 仲人さんの家への礼には、両家の両親が揃って行く。丁寧には新  
郎新婦も連れ立って。 >

2. 仲人は、それに応じて、どのようなあいさつをしますか。

○イヤ、マ、イタラン コトデ。オメデトー ゴザイマシタ。 いや  
まあ、到らぬことで。おめでとうございました。(中品)

3. ちなみに。

- (1) 仲人へのお礼(結納の約1割程度)はこの時にする。先にも触れたように、仲人へは、結納納めの時に、そのお礼として結納の1割が渡されるが、これは新郎新婦へのお祝いにするから、仲人の手元には残らないので、結局挙式後のこのお礼が仲人への実質的なお礼になる。
- (2) 仲人には、盆暮れのあいさつから出産の祝いなど、つねに礼を尽くすが、これは家によって3年間で打ち切るところもあれば、ほとんど一生の間続ける場合もある。

Ⅵ. 嫁のはじめての里帰りのあいさつ

1. 嫁がはじめて里帰りする時、嫁ぎ先の親に、どのようなあいさつをしますか。

○ソレデワ イマカラ ミッカガエリニ カエラシテ モライマス。

それでは今から三日帰りに帰らしていただきます。

< 挙式後三日して帰るので、ミッカガエリという。今は旅行から帰ってからである。実家に帰ったら、必ずご先祖のお仏壇にまずごあいさつする。ミッカガエリはもともとご先祖への報告のためのものであった。三日帰りまでは、入籍しない習わしがある。>

2. 両親は、それに応えて、どのようなあいさつをしますか。

○ア、キーツケテ。センゾサンニ オマイリ シー ヤ。オトーサン  
ヤ オカーサンニ ヨロシク ネ。マタ アソビニ キテ モーテ

ヤ。 ああ、気をつけて。先祖さまにお参りしなさいね。お父さんやお母さんによろしくね。また遊びに来てもらってね。(中品)

< ご先祖さまにお参りするよう勧めるところに、なお良俗が生き続けている。もっとも、今はこう言う親は少なくなっているであろう。「ヨロシクネ」は共通語的表現で、若嫁に対することば待遇のまだ手探り状態であることを反映しているようで、かえって興味深い。>

3. ちなみに。

- (1) 嫁入りして来た嫁さんは、挙式の日、まず嫁ぎ先のご先祖の仏壇にお参りする習わしである。式場から一旦家に帰ってお仏壇にごあいさつし、それから新婚旅行に出発するのである。しかし、今はもう式場

から直接旅行に発つケースが多くなっている。

(2)戦前までは、正式の挙式以前に、アシイレと称して、嫁さんが簡単な荷物を風呂敷に包んで、男のもとにやって来て、事実上の結婚生活に入ったものである。労働力確保のためであろう。挙式は来年の米がとれてからというわけである。トシマワリが悪いというようなことを口実にして。要は、アシイレは、一種の試用期間のごときもので、極端なケースでは、1年も経って破談になることさえあった。今はもちろんそんなことは全くない。

### ○おわりに

あいさつと一口に言っても、ごく簡潔で固定的な習慣形から、ほとんど日常の世間話とも見られるものまでいろいろであって、かつそれが連続的である。しかし形態がフレキシブルなものも、あいさつの場では、そこに一定の発想類型が認められることが、以上の記述によっても明らかである。

あいさつことばの考察の目的は、一つに、この発想類型の地方的特色の把握、あるいは日本語統態の総合的把握にあらう。それは、人が人と言語的に交わる際の「社会意志」<注>のありかたを見ることになる。

以上見てきたところから言えば、とにかく相手方を褒め(いい所へ・いい所から・りっぱな道具)、自分方については卑謙・謙退の態度を表すということが、特徴として認められるであろう。そしてまた、夫婦仲良くということや、どちらかといえば両親と仲良くということの強く願われていることが、見て取られる。これらのことは、調査対象者が老年層という限定下でのことではあるが、まさしく社会意志のしからしめることと考えられよう。

あいさつことばには、その土地の特徴的な抑揚類型や、文法殊に敬語法などがよく反映しているので、これをつかまえることがおのずから深い表現法研究にもなるはずである。同じ内容でも、相手次第で待遇表現が大きく変容することは、以上の諸例によって明らかである。

さてこれらのことが、日本国土上で、あるいは世界の中で、どういう一般性と特殊性とを持って存立しているのであろうか。

<注>「社会意志」については、藤原与一先生の「方言学原論」(1983三省堂)や「方言学の原理」(1989三省堂)など参照。

1990, 11, 30 (大阪教育大学)